

## ■ クラシックギターに使われる木材の種類と特徴の一口メモ



ギターの表面板(響版)が創り出す音はボディ全体で増幅されます。横、裏板は音を吸収してしまうのではなく、音を反発するような質量が大きい素材が求められ、横、裏板にはローズウッドやハカランダのような黒味がかった重い材料が使用されます。横、裏板の材質は音量、音の重厚感に表れます。

### ● トップ板

- ・クラシックギターのトップ板には、主に**スプルース材**と**シダー材**が使用されます。
- ・木材そのもののグレードが違うものでもない限り、スプルースやセダーでどちらの方が格が上ということはありません。



#### <Spruce スプルースの特徴>

- ・スプルース(松)で、白っぽい見た目が特徴の木材です。
- ・シダーに比べ硬めで、その分音も硬くハッキリとし、立ち上がり早くアタック感のある音色が特徴です。
- ・響振性にすぐれており明瞭な音です。遠達性も高く、大きなホールでの演奏に向いています。

#### <Cedar シダー(セダー)の特徴>

- ・シダー(米杉)の木材です。
- ・セダーとも呼ばれ、色が濃く赤みがかった暗い見た目が特徴的。ボディトップが赤っぽい濃い色であれば、ほぼシダーだと思って間違いありません。
- ・サウンドはスプルースに比べ柔らかく丸みのある、暖かみのある音色です。とりわけ低音の力強さが魅力で、クラシックギターらしいサウンドを生み出す素材ともいえます。



### ● サイド・バック材

- ・音響的に言えばボディトップ材・バック材に比べれば比較的影響は少なく、ボディサイドにはボディバックに使われた木材と同じ材が使用されるのが一般的です。
- ・クラシックギターのサイド・バックに使われる木材は**ローズウッド**が最も一般的です。マホガニーなどの木材も使われますが、ローズウッド以外の木材はそれほど一般的ではありません。
- ・ローズウッドは密度が高いため音の反射が良く側板・裏板用の材として人気があります。



### ● ボディバック材

- ・トップに伝わった振動をボディ内で跳ね返し、反響させる重要な役割を持っています。
- ・バック材には主に**ローズウッド**が使用されています。ボディバックにはボディサイドと同じ材を使用するのが通例です。
- ・ローズウッドはマホガニーに比べ重さがあり、低音が出やすいのが特徴。
- ・マホガニーは軽快で明るめのサウンドが特徴です。



### ● ネック材(棹)

- ・マホガニー：濃い赤褐色。ネック材としても標準的に使用されています。
- ・ナトー：マホガニーと似た赤褐色で性質も似ている。マホガニーよりやや硬い。

### ● 指板材

- ・エボニー：別名を黒檀(こくたん)ともいう。指板材の最高のものとされる。黒色で非常に硬度が高いため音の立ちあがり早く、メリハリや伸びの点で優れています。

### ● ブリッジ：ハカランダ・ローズウッド